

目的 どの照度レベルでもよく目立つ色の衣服を設計するために、目立ち空間を提案し、ある色のある背景からの目立ちはその空間での両者の座標の距離として表すことが出来ること、またその目立ち空間は照度レベルによって変化することなどを明らかにしてきた。さらに、この空間から予測される安全性の高い衣服の色は1色だけでは不十分で、2色の配色されたもの、具体的には輪郭部に8BG、内側に8Rを配したものであることも明らかにした。今回はこの予測を確かめるために31人の被験者を使い、目立ち実験を行う。

方法 2色配色の刺激12枚(8BG-8R、8BG-10RP、7B-10RP、8BG-7YR、10G-7YR、7B-2RP、8BG-5Y、10G-5Y、7B-3GY、10G-5PB、7B-10G、10G-8BG)を作製し、これらの目立ち順位を、0、1、10、1000ルクスの照度下で決定し、それぞれ目立ち得点を求める。3レベルの目立ち得点の総和を目立ちインデクスCIと定義する。このようにして実験的に求めたCI値と上記の理論的CI値を比較する。被験者は短大学生。

結果 各照度レベルでの目立ち得点の最高点は11であるが、31人の平均値は、8BG-8Rの刺激で、0、1ルクスでは10、8、10ルクスでは10、9、1000ルクスでは10、9で、いずれも理論値の11にきわめて近い値を示し、逆に10G-8BGでは0、3、0、1、0、1で、理論値の0に近くなっている。これらの良い予測は目立ちインデクスCI値にも反映して、実験的CI値と理論的CI値の相関係数は0、997という高い値となった。これによって先に導入された目立ち空間の汎用性が確かめられた。